

【ポスター発表】

在宅高齢者に対する訪問看護・訪問介護・居宅介護支援の
チーム活動に関する研究(2)

- チーム活動にかかわる社会資源情報との関連 -

梅花女子大学 綾部貴子(3308)

松井妙子(香川大学・3306) 原田由美子(京都女子大学・6076)

井上千津子(京都女子大学・2013) 鳥海直美(四天王寺大学・4400) 白澤政和(桜美林大学大学院・769)

キーワード：チーム活動・実践度・知識

1. 研究目的

本研究の目的は、訪問看護や訪問介護、居宅介護支援の事業所の三職種によるチーム活動の実践度とチーム活動にかかわる社会資源情報との関連を明らかにすることである。

2. 研究の視点および方法

調査の対象は、K圏内で wamnet に登録されており、無作為で抽出された訪問看護事業所の看護職、訪問介護事業所のサービス提供責任者、居宅介護支援事業所の介護支援専門員の各 500 名(計 1500 名)である。調査方法は郵送方法で自記式調査とした。調査期間は、平成 22 年 10 月 5 日～10 月 31 日であった(有効回収率:52.1%,782 名)。調査項目は、調査対象者の「基本属性」12 項目(「性別」「年齢」「最終学歴」「雇用形態」「業務形態」「職位」「現事業所における経験年数」「専門領域」「在宅・地域関連の職場経験年数」「専門職としての経験年数」「三職種のチーム活動経験の有無」「身近な人への介護体験の有無」)、
「チーム活動にかかわる社会資源情報」5 項目(「チーム活動関係事業所の情報」「地域の介護保険制度の各サービス事業所の特徴についての情報」「地域の介護保険制度外の各資源の特徴についての情報」「チームメンバー(以下、メンバーとする)の役割と責任に関する知識」「在宅高齢者および家族が最も信頼しているメンバー」)、プロマックス回転に伴う主因子法により抽出された「チーム活動に対する実践度」の 3 因子(第 1 因子:『チーム活動の具体的方法』11 項目, $\lambda = .916$ 、第 2 因子:『チームケアの質向上のための行動』10 項目, $\lambda = .933$ 、第 3 因子:『チームケアの基盤』4 項目, $\lambda = .857$)を設定した(既に内容妥当性や構成概念妥当性、信頼性、正規分布は確認し、他学会にて報告済みである)。回答選択肢について、「チーム活動にかかわる社会資源情報」は「知っている」～「知らない」、
「チーム活動に対する実践度」は「実践できている」～「実践できていない」のそれぞれ 5 段階の選択肢を設定した。分析方法は、「チーム活動にかかわる社会資源情報」の各項目の単純集計結果を算出した。さらに、「チーム活動に対する実践度」の各因子(平均値を算出)を従属変数、「チーム活動にかかわる社会資源情報」の各項目の平均値以上(高群)

平均値未満（低群）の2群に分類、独立変数とし、t検定を実施した。

3. 倫理的配慮

倫理的配慮は、京都女子大学臨床研究倫理審査委員会にて承認を得て実施した。対象者には、研究の趣旨や匿名性の確保、データの管理方法を文書で説明し、調査の趣旨を理解したうえで、研究に協力する意思のあるものだけが個別に返信した。

4. 研究結果

「チーム活動にかかわる社会資源情報」の単純集計の結果について、全体の平均値は4.08であった。各項目の平均値について、「チーム活動関係事業所の情報」は4.35で最も高く、次に「メンバーの役割と責任に関する知識」は4.20、「在宅高齢者および家族が最も信頼しているメンバー」は4.11、「地域の介護保険制度の各サービス事業所の特徴についての情報」は4.06、「地域の介護保険制度外の各資源の特徴についての情報」は3.70であった。平均値が高かった項目については、他の項目に比べてチーム活動の実践に直結するものであったためと考える。

「チーム活動にかかわる社会資源情報」と「チーム活動に対する実践度」の各因子とのt検定の結果、全ての項目において、全因子との有意差がみられた($p < .001$)。すなわち、チーム活動にかかわる社会資源情報がある者は、「チーム活動に対する実践度」が高い傾向にあることが示された。個々のメンバーの役割や相手のメンバーの所属する事業所の情報を把握していることは、メンバー間の役割分担が明確になることや、効率的にチーム活動の時間を確保することができるため、チーム活動の実践度が高かったと推察される。また、メンバーの情報以外の社会資源の情報を把握していることは、チーム活動を通して必要となる利用者の生活への継続的な支援のための社会資源の理解と活用につながり、在宅生活を支えていくためのチーム活動の実践の質を高めることにもなると考える。

なお、本研究は、平成21年度大阪ガスグループ福祉財団「研究・調査助成」を受けて実施した研究結果（代表：松井妙子）の一部である。

表 「チーム活動にかかわる社会資源情報」との関連結果

基本属性項目		第1因子 チーム活動の具体的方法					第2因子 チームケアの質向上のための					第3因子 チームケアの基盤				
		平均値	SD	有意確率	T値	自由度	平均値	SD	有意確率	T値	自由度	平均値	SD	有意確率	T値	自由度
「チーム活動を行っている関係事業所の情報」	低	3.47	0.67	***	-9.73	586	3.29	0.73	***	-7.46	634	3.60	0.73	***	-7.99	612
	高	3.92	0.57				3.68	0.67				4.00	0.63			
「地域にある介護保険制度のサービス事業所について、各サービス事業所の特徴についての情報」	低	3.61	0.68	***	-7.84	698	3.41	0.76	***	-6.35	678	3.70	0.74	***	-7.72	729
	高	3.96	0.54				3.73	0.61				4.06	0.56			
「地域にある介護保険制度外の社会資源について、各資源の特徴についての情報」	低	3.45	0.71	***	-7.76	370	3.18	0.80	***	-8.46	368	3.52	0.80	***	-7.98	361
	高	3.86	0.58				3.68	0.63				3.98	0.60			
「医療的ケアにおける介護職の業務制限等、チームメンバーの役割と責任に関する知識」	低	3.52	0.65	***	-11.27	767	3.32	0.73	***	-9.06	757	3.64	0.71	***	-9.40	777
	高	4.00	0.54				3.77	0.64				4.08	0.60			
「在宅高齢者および家族が最も信頼しているチームメンバー」	低	3.54	0.62	***	-11.08	767	3.32	0.69	***	-10.06	762	3.66	0.70	***	-9.10	734
	高	4.03	0.59				3.82	0.66				4.09	0.61			

*** : $p < .001$